

令和6年12月定例愛知県議会 知事提案説明要旨

このたびの定例県議会に提案をいたしました諸議案のご説明に先立ち、三笠宮妃百合子殿下の薨去について申し上げます。

11月15日に薨去された三笠宮妃百合子殿下の追悼のため、先日、皇居、三笠宮邸、三笠宮東邸、高円宮邸を弔問し、記帳してまいりました。謹んで哀悼の意を表しますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

それでは、県政を取り巻く最近の状況について申し述べ、議員の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げたいと存じます。

はじめに、国政の状況についてです。

10月の衆議院議員総選挙を経て、11月11日に、第2次石破内閣が発足し、11月22日に、日本経済・地方経済の成長、物価高の克服、国民の安心・安全の確保を柱に、新たな総合経済対策が策定をされました。

本県としても、国の補正予算に呼応して実施する事業について、今後の国の補正予算の審議・成立の状況等を注視し、適切に対応してまいります。

次に、最近の経済情勢と来年度の予算編成についてです。

我が国の景気は、個人消費に持ち直しの動きがみられ、企業収益は総じてみれば改善しているほか、雇用情勢も改善の動きがみられるなど、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復をいたしております。

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、景気は緩やかな回復が続くことが期待されますが、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっております。また、物価上昇、アメリカの今後の政策動向、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意をする必要があります。

こうした中、本年度の県税収入につきましては、主要税目であります法人二税につきまして、3月期決算法人の本年3月期の業績が好調であったことから、当初の見込みを上回る水準で推移をしております。

一方、来年度の県税収入につきましては、法人二税に影響を及ぼす上場企業の来年3月期の業績予想は、海外景気の減速を懸念して慎重な見通しを立てている企業が多くなっております。ま

た、物価高や賃金の伸びの動向によっては、地方消費税など消費関連税目への影響が懸念されることから、今後の国内外の経済情勢等を注視し、税収を慎重に見極める必要があります。

他方、歳出面では、医療・介護・子育てなどの扶助費が確実に増加するほか、社会情勢の変化や多様化する行政ニーズに的確に対応していく必要があります。

こうしたことから、本年度当初予算で多額の取崩しを計上した基金残高の回復を図る必要があります。年度内の更なる財源確保に取り組むとともに、歳出についても、引き続き事務事業の見直しに取り組み、真に必要な分野に、限られた財源を重点的かつ効率的に配分することを基本に、来年度の予算を編成してまいりたいと考えております。

次に、STATION Aiプロジェクトの推進についてです。

本県では、6年前の2018年10月31日に、グローバルイノベーション都市への飛躍を目指す「Aichi-Startup戦略」を公表し、2021年10月から約3年にわたり、戦略の中核を担う「STATION Ai」の整備を進めてまいりました。

10月31日、STATION Aiがグランドオープンを迎え、会員スタートアップやパートナー企業、国内外の連携機関等の500名を超える関係者の皆様にご出席をいただき、オープニングセレモニーを盛大に開催いたしました。

グランドオープン当初、まずは、スタートアップ約500社・パートナー企業等約200社のコミュニティーの拠点としてスタートをいたしております。

そして、5年後を目途に、スタートアップ1,000社の集積を目指して、世界中からさらに多くの皆様を呼び込み、STATION Aiから日本のイノベーションを大いに盛り上げてまいります。

11月1日は、STATION Ai内に開設されたシンガポール国立大学の日本初となるスタートアップ支援拠点「BLOCK71 NAGOYA」のオープニングセレモニーが開催され、私も出席いたしました。

BLOCK71 NAGOYAの開設により、シンガポールを始めとする東南アジアのスタートアップと県内企業との協業がますます盛んになるとともに、県内スタートアップの東南アジア展開が一層推進されることを期待いたします。

また、同日、STATION Ai内に整備した「あいち創業館」(Aichi Founders Museum)が完成し、展示にご協力いただいた企業や創業家の関係者をお招きしてオープニングセレモニーを開催いたしました。

あいち創業館では、豊田佐吉氏や盛田昭夫氏など、愛知ゆかりの創業者・企業家の功績やエピソード

ソードを、STATION Aiにふさわしい先端的なデジタル技術等を使って展示しております。多くの子どもたちに来場いただき、産業の歴史を学んでもらうとともに、将来の起業家としての夢を育てていただきたいと考えております。

さらに、本県では、県内の各地域において、地域特性や強みを活かして主体的にスタートアップ支援に取り組む機関などをSTATION Aiパートナー拠点と位置づけ、STATION Aiとの相互連携・協力関係の構築を進めているところです。

このたび、刈谷市を中心に地元経済団体等で設立された「刈谷イノベーション推進プラットフォーム」をSTATION Aiパートナー拠点と位置づけ、11月15日に覚書を締結いたしました。

今後も、パートナー拠点の設立を促進し、地域一丸となって、スタートアップの創出・育成・誘致に向けた施策を着実に実行することで、愛知独自のスタートアップ・エコシステムを形成してまいります。

このパートナー拠点は、東三河（スタートアップ推進協議会）、そして大府東浦（ウェルネスバレー推進協議会）に続いて3か所目ということでございます。引き続き、県内各地域と連携を深めていきたいと思っております。

なお、10月31日のグランドオープン後、STATION Aiでは、ピッチイベントやフォーラム、シンポジウム、ビジネスコンテストなど、毎日毎日3つ4つ、多い時には6つも開催されております。私もこの1か月で、STATION Aiに11回出席をいたしております。

大変多くの方に使っていただき、大変ありがたいと思っております。引き続き、しっかり盛り上げてまいります。

次に、アジア競技大会・アジアパラ競技大会の推進についてです。

10月12日に、イオンモール熱田でアジアパラ競技大会の2年前セレモニーを開催し、アジアパラ競技大会の公式マスコット「ウズミン」をお披露目いたしました。この名前には、パラアスリートの熱い想いが「渦」となって愛知・名古屋に集まり、そこで生まれた感動が「泉」のように湧き上がってアジア中に広がって欲しいという願いが込められております。

今年7月にデビューしたアジア競技大会の公式マスコット「ホノホン」とともに、愛知・名古屋2026大会を大いに盛り上げてまいります。

また、10月21日から、愛知・名古屋2026大会のボランティアの募集を開始いたしました。競技会場や選手等の宿泊施設などで大会運営の直接的なサポートを行う「大会ボランティア」と、主要駅や会場最寄り駅周辺を始めとした競技会場外で来訪者の案内・誘導等を行う「都市ボ

ランティア」について、来年1月31日まで募集を行っております。

大会の成功に向けて、多くのボランティアの皆様にご参加いただき、大会運営の現場を支えていただくとともに、その活躍を通して、「大会の顔」として大会全体のイメージを作り上げるという重要な役割を担っていただきたいと考えております。

さらに、11月13日から2日間にわたり、今年2回目となるAPC（アジアパラリンピック委員会）調整委員会が名古屋市内で開催され、アジアパラ競技大会の準備状況を説明・報告しました。大会運営や競技会場のアクセシビリティ対策など、会議でいただいたAPCからの助言を踏まえ、開催準備をしっかりと進めてまいります。

今後も引き続き、組織委員会の会長として、各競技団体のほか、名古屋市や県外を含む関係自治体などと緊密に連携し、大会の成功に向け、オールジャパンで、全力で取り組んでまいります。

次に、中国訪問についてです。

10月13日から19日まで、中国の北京市及び広東省を訪問してまいりました。

まず、14日に、北京市において、交通プラットフォーム企業のDiDiを訪問し、自動運転に関する先進的な取組などについて説明を受けました。その後、清華大学の関連組織であるTsinghua Holdingsの王濟武董事長と面談し、STATION Aiの開業を見据えた双方の連携について合意しました。

また、元江蘇省書記の婁勤儉中国全国人民代表大会外事委員会主任委員と5年ぶりに面談し、来年に、本県と江蘇省が友好提携45周年を迎えることを報告するとともに、これからも日中関係を前に進めていきたいとお伝えしました。

その後、清華大学の李路明学長と面談し、2019年9月に締結した包括交流に関する覚書を更新しました。

15日は、トヨタ自動車が出資するPony.aiと、トヨタ自動車と現地企業との合弁会社である華豊燃料電池有限公司を訪問しました。

その後、広東省へ移動して、16日は、新興電気自動車メーカーの小鵬汽車を訪問したほか、中国対外貿易センターの儲士家主任と面談し、中国最大級の貿易見本市「中国輸出入商品交易会」を視察しました。

続いて、友好提携5周年を迎えた広東省の王偉中省長と面談しました。王省長からは、「愛知県と広東省は産業基盤が共通しているので、さらに新しい分野での協力を開拓したい」との発言があり、大学や観光など、様々な分野で交流を進めていくことで合意しました。また、私から王省長へ、本県への来訪を呼びかけました。

17日は、広州市の广汽トヨタ自動車有限会社を訪問し、自動運転の推進に向けた取組について意見交換を行ったほか、広東省に本社を置くIT企業ファーウェイの研究開発拠点であるオックスホーン・キャンパスを視察しました。

18日は、清華大学の研究・大学院教育機関である清華大学深圳国際研究生院の武曉峰党委員会書記と面談し、今後、交流を深めていくことを確認しました。

その後、深圳市西部に位置する経済特区の前海深港現代サービス業協力区を視察したほか、深圳市の蔣宇揚人民代表大会常務委員会副主任と面談し、スタートアップ分野の連携等について意見交換を行いました。

また、Tusホールディングスの広東省エリアを統括する広東Tusグループの黄冬萍総裁と面談し、今後、連携・交流を進めていくことで合意しました。

最後に、深圳市のZTE Corporationを訪問し、海外の次世代通信事業者の動向について意見交換を行いました。

今回の渡航では、現地企業などに対し、2025年6月に本県で開催される国際的な産業展「AXIA EXPO 2025」への出展を要請してまいりました。

また、深圳で日本人学校の児童が刺殺された痛ましい事件を受けて、婁中国全国人民代表大会外事委員会主任委員、王広東省省長及び蔣深圳市人民代表大会常務委員会副主任との面談では、遺憾の意を申し上げるとともに、現地の日本人、とりわけ子どもたちの安全確保のための具体的な措置を、引き続き講じていただくよう強く要請いたしました。

今後も、北京市や広東省を始めとする中国各地域と、経済、スタートアップ支援、若者世代の交流など、幅広い分野で交流を推進し、お互いの更なる発展につなげてまいります。

次に、私が座長を務める全国知事会「少子化の観点から結婚や子どもの法的保護等を巡る現状と課題について考える研究会」についてであります。

この研究会は、少子化の最大の要因の一つである結婚の減少や出産・子育ての現状と課題について理解を深めることを目的として、私が提案して設置されたものです。

10月21日に開催した第1回会合には、25都府県が参加し、国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部長の岩澤美帆氏による講演の後、意見交換を行いました。

今後、研究会に参加している都府県の皆様とともに、若者のニーズや置かれた状況などを整理・分析していきながら、これからの政策を検討する際の論点などを整理してまいります。

次に、「第61回日豪経済会議」についてです。

日豪経済会議は、日本とオーストラリアで毎年交互に開催されている二国間経済会議であります。昨年、オーストラリアで開催された同会議では、私から2024年会議の開催地宣言を行いました。

10月24日に名古屋市で開催された「第61回日豪経済会議」には、私も開会式に出席し、祝辞を申し上げてまいりました。今回の会議では、550名を超える両国の財界人等が一堂に会し、貿易や投資等をテーマに議論が交わされました。

今後、日本とオーストラリアの交流が一層活発になり、相互の更なる発展に繋がることを期待します。

次に、自動運転社会実装の推進についてです。

本県では、全国に先駆けて2016年度から自動運転の実証実験を積み重ねてきました。今年度は、常滑市内、長久手市内で実施した、技術面、安全面を検証する実証実験に引き続き、STATION Aiの開業に合わせ、11月7日から3月19日までSTATION Aiと名古屋駅を結ぶルートにおいて、定期運行を実施しております。

私も、10月25日に自動運転車両に試乗してまいりましたが、とてもスムーズな走行で、若宮大通のような交通量の多い道路も支障なく走行しておりました。

今後も、自動車産業の一大集積地である愛知が、引き続き日本、そして世界をリードする存在であり続けるために、時代の最先端を行く取組に挑戦し、自動運転の更なる高度化や社会実装を推進してまいります。

次に、警察署の整備についてです。

11月30日に供用開始した岡崎警察署については、10月25日に開催された新庁舎の落成式に、私も出席いたしました。

新庁舎は、来庁者用の広い待合スペースや駐車場の確保、相談者のプライバシーに配慮した相談室の増室など、地域の皆様の利便性、快適性に配慮した施設となっております。新庁舎の外観には、岡崎城の天守や城下町の町並みが今も残る「八丁蔵通り」の板張り壁面、さらには、宿場町として栄えた「藤川宿」の格子窓をイメージした岡崎らしさを取り入れたデザインを採用するなど、県民に親しまれやすい、まちと調和した庁舎となるよう配慮しております。

また、敷地をかさ上げし、新庁舎を道路面より高く設定したほか、インフラ途絶後3日間のバックアップ機能を確保するなど、災害時の活動拠点としても機能する庁舎としております。

今後も、地域の皆様に親しまれる警察署となることを期待するとともに、新庁舎を拠点に安全・

安心なまちづくりを一層推進してまいります。

次に、矢作川・豊川カーボンニュートラルプロジェクトについてです。

このプロジェクトは、「水循環」をキーワードに、官民連携で総合的かつ分野横断的にカーボンニュートラルの実現を目指す取組です。

この取組の一つとして、本年3月から、河川や上下水道などの水インフラの空間をフィールドとした新技術の実証実験の民間提案を求めたところ、小水力発電に対する先進的なアイデアなど、全国から19件の提案をいただきました。

10月29日に開催した「矢作川・豊川CN推進協議会」では、提案の概要を説明するとともに、今後、全ての提案について、実証実験等の実施に向けた支援を行っていくことを報告し、構成員の皆様と意見交換を行いました。

今後とも、本県がトップランナーとなり、カーボンニュートラルの実現に向け、流域が一体となってしっかりと取り組んでまいります。

次に、中部圏知事会議についてです。

10月30日、岐阜県で開催された「中部圏知事会議」に出席し、「地域に根ざした文化の創造と継承」をテーマに、意見交換を行いました。

私からは、本県の文化芸術施策として、国際芸術祭「あいち2025」や「あいちアール・ブリュット展」の開催、「発酵食文化」の魅力発信の取組などを紹介し、今後、愛知から世界に向けて、文化芸術や食文化、地域の伝統芸能など、多彩な魅力を発信していくと申し上げました。

また、会議では、文化芸術の魅力発信や新たな文化の創出、地域固有の食文化や文化財等の保存・活用等の取組について、9県1市がより一層連携して推進していくことを宣言として採択しました。

さらに、来年9月に「A i c h i S k y E x p o」で開催される「ツーリズムEXPOジャパン2025愛知・中部北陸」について、私から、中部圏の魅力を世界に発信する千載一遇の機会となることから、9県が連携して共同出展を実施し、中部圏を大きくアピールしていきたいと申し上げました。

今後とも、中部圏知事会の会長として、各県の知事や市長と力を合わせ、中部圏の更なる発展に向けて全力で取り組んでまいります。

次に、県産農林水産物の需要拡大についてです。

あいちの花の消費拡大を図るため、10月31日から11月3日の4日間は、オープニングを迎えたSTATION Aiに隣接する鶴舞公園で、11月30日、12月1日は、安城産業文化公園デンパークで、「あいち花マルシェ2024」を開催しました。両会場とも多くの方にご来場いただき、楽しみながら、あいちの花をたくさんお買い求めいただきました。

このイベントでは、花のディスプレイや品評会、花の体験教室が開催されるなど、「花の王国あいち」にふさわしい内容で花の魅力を存分に伝えるとともに、鶴舞公園会場では、STATION Aiのオープニングにあいちの花で華やかな彩りを添えられたと感じております。

また、県産農林水産物の魅力を県民の皆様に伝えるため、11月9日、10日に、「あいちの農林水産フェア」を金山総合駅で開催しました。会場では、県産農林水産物及びその加工品を販売するとともに、農林水産業に対する理解を深める体験イベントを実施し、多くの方にご来場いただきました。

今後も、県産農林水産物の魅力発信に積極的に取り組み、需要拡大を進めてまいります。

次に、ジブリパークについてです。

ジブリパークは、今年11月1日に開園から2周年を迎えました。これを記念して、愛・地球博記念公園では、ジブリパークにちなんだ様々なイベントを行う「秋のどんどこ祭り」が開催されました。

11月2日の夜には、シンガーソングライターの家入レオさんのコンサートと映画「アーヤと魔女」の上映会が、3日の夜にはピアニストの菊池亮太さんのコンサートと映画「ハウルの動く城」の上映会が、大芝生広場の野外ステージで開催され、私も多くの皆様と一緒に、秋の夜長の特別なひと時を楽しませていただきました。

また、11月10日には、「もののけの里」の開園1周年を記念し、同エリア付近で、地元長久手市の警固祭りの鉄砲隊による火縄銃の実演と、「棒の手」の披露が行われ、映画「もののけ姫」の世界観とともに、今も本県に受け継がれる歴史と伝統文化の奥深さを、国内外の多くの皆様に感じていただきました。

なお、私は、この「棒の手」の「愛知県棒の手保存会連合会」の会長を仰せつかっておりまして、また引き続き、皆様とともに「棒の手」をしっかりと継承し、盛り上げてまいります。

さらに、11月20日には、ジブリパークの「魔女の谷」が、アメリカ・カリフォルニア州にあるテーマエンターテイメント協会の第31回ティア・アワードにおいて、「イマーシブランド賞」を受賞しました。

ティア・アワードは、テーマパークやアミューズメント業界において、特にエンターテイン

トとアトラクションの分野で卓越した成果を上げたプロジェクトを称えるもので、今回、日本からは、東京ディズニーシーの「ファンタジースプリングス」と並んで選出されました。

施設のコンセプトや空間デザインを高く評価されての受賞ということでありまして、ジブリパーク制作を指揮していただいた宮崎吾朗監督に深く敬意を表するとともに、ジブリパークの整備主体である本県として、心から嬉しく思います。

開園から3年目を迎えるジブリパークが、国内外の皆様に広く愛される公園施設として、その存在感をさらに発揮し、当地域の活性化や、本県に関心を持つ層の拡大をリードできるよう、引き続き、公園関係者や周辺市町村と密に連携しながら、ジブリパークを活用した圏域全体のプロモーションに努めてまいります。

次に、特別支援教育の充実についてです。

11月5日に、本年4月に移転開校した岡崎特別支援学校の開校記念式典を開催しました。

岡崎特別支援学校は、学習環境の改善や立地上の課題を解決するため、岡崎市本宿町から同市美合町の県立農業大学校地内に移転開校しました。

これまで通学している岡崎市及び幸田町に加え、新たに蒲郡市も通学区域とし、約130人の肢体不自由のある児童生徒が在籍をいたしております。

なお、この130人のうち100人が通学、20人が施設等への入所・入院、そして10人が在宅ということでございます。従いまして、この入所・入院、在宅の方は、岡崎特別支援学校から先生が訪問して授業を行う、マンツーマンでという形になっております。なので、130人の在籍の子どもたちに対し、岡崎特別支援学校は教職員141人で対応をいたしております。学校の先生方だけでなく、看護師も十数人が在籍しております。

こうした教職員始め皆さんの努力により、子どもたちをしっかりと支えていきたいと思っております。引き続き、きめ細やかな対応をしてまいります。

「力のかぎりたくましく」を校訓に、明るく心豊かに生活できる学校を目指すとともに、共生社会で豊かな自己実現を果たすことができるよう、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた教育を展開してまいります。

また、特別支援学校の過大化による教室不足や長時間通学の解消のため、小牧特別支援学校及びいなざわ特別支援学校に新たに校舎を新設いたします。そして、名古屋東部地区新設特別支援学校、西三河北部地区新設特別支援学校の開校なども進めてまいります。

これは、新設でありますので、新たに校舎を造り、開設をしてまいります。2年半後を目途に、設計等を進めているところであります。

引き続き、特別支援教育の充実にしっかりと取り組んでまいります。

次に、地震・防災対策についてであります。

11月10日に、名古屋市西区の庄内緑地において、「あいち防災フェスタ」を開催し、防災知識の普及、県民の防災意識の高揚、家庭における防災対策の推進及び防災ボランティア活動への理解を促進するため、広く啓発を行いました。あわせて、「ペット防災マルシェ」を初めて開催し、ペット防災を学ぶことができるセミナーやペット防災グッズの紹介等を行いました。

また、11月17日には、「愛知県・愛西市津波・地震防災訓練」において、南海トラフ地震及びそれに伴う津波を想定した避難訓練、避難所運営訓練、ゼロメートル地帯広域防災活動拠点を活用した広域避難訓練など、実践的な訓練を実施しました。

今後も、県民の皆様の防災意識を高める取組を進めるとともに、国、関係自治体、防災関係機関等と連携を図り、防災対策に万全を期してまいります。

次に、女性の活躍促進についてです。

11月12日に、「あいち女性の活躍促進サミット2024」を開催し、女性管理職の登用拡大や働きやすい職場づくりなど、女性の活躍促進に積極的に取り組んでいる「あいち女性輝きカンパニー」の中から、他の模範となる優良企業8社を表彰しました。

今年度からは、労働者300人以下の部において、新たに「製造業の部」及び「建設業の部」を設け、中小企業における取組を一層推進することとしました。

また、基調講演や表彰企業による事例発表なども行い、企業経営者を始めとする多くの方々に、女性の活躍に対する理解を深めていただきました。

引き続き、「すべての女性が輝く愛知」の実現に向けて、しっかりと取り組んでまいります。

次に、水素・アンモニアの社会実装の推進についてです。

本県では、2050年のカーボンニュートラル実現に向け、2022年に「中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議」を設立し、中部圏の自治体や経済団体等と一体となって、水素・アンモニアのサプライチェーン構築や利活用の促進に向けた取組を進めております。

11月18日、STATION Aiにおいて、推進会議と中部圏で水素・アンモニアのサプライチェーン構築を目指す企業20社との間で、相互協力の基本合意書を締結しました。

この基本合意書締結を契機に、企業の皆様と連携・協力を図りながら、水素・アンモニアの社会実装に向けた取組を強力に進めてまいります。

次に、国の施策・取組に対する要請についてです。

11月21日に、2025年度の政府予算案編成に向けて、関係大臣等に対し、要請活動を実施しました。

福岡厚生労働大臣には、株式会社 恵 に対する行政指導の継続と関係自治体への支援、2028年技能五輪国際大会に向けた準備や選手強化の充実などを要請しました。

また、経済産業省には、水素及びアンモニアのサプライチェーン構築に向けた取組への支援について、文部科学省には、アジア・アジアパラ競技大会の大会経費等への支援について、国土交通省には、広域道路ネットワークなどの社会インフラの整備促進について、農林水産省には、新規就農希望者の経営支援や経営開始資金等への支援について、総務省には、地方一般財源総額の確実な充実などについて、それぞれ要請しました。

このほか、全国知事会、全国市長会、全国町村会の地方三団体で取りまとめた「教師の処遇の抜本的な改善等による学校教育を担う人材確保のための緊急提言」について、全国知事会文教・スポーツ常任委員長として、文部科学省への要請活動を実施してまいりました。

引き続き、県政の様々な課題について、国に対し、必要な支援や協力をしっかりと働きかけてまいります。

次に、F I A世界ラリー選手権ラリージャパンについてであります。

11月21日から24日までの4日間、モータースポーツの最高峰の一つとして、半世紀以上の歴史と伝統を誇る「F I A世界ラリー選手権（WRC）ラリージャパン2024」が、ここ愛知・岐阜で開催されました。

今年も、山間地コースに加え、豊田スタジアムや岡崎中央総合公園に特設コースを設けるなど、多くの方に観戦いただけるコースが設定されました。私も豊田スタジアムでのスーパースペシャルステージを観戦しましたが、目の前を駆け抜けるラリーカーの迫力ある走りや音に圧倒されました。

地元の声援の後押しもあり、トヨタ・ガズー・レーシングが、15ポイント差を大逆転してマニファクチャラーズの間年チャンピオンを決め、また、本県出身の勝田貴元選手が、パンクのアクシデントがありながらも個人成績4位と健闘するなど、日本の多くの自動車関係者やモータースポーツファンの期待に応える素晴らしい大会でありました。

最終日には、表彰式に私も参加しましたが、すべての関係者の皆様が誇らしく喜んでおられました。

来年も、11月に、愛知・岐阜で開催されることが決定をいたしております。私も実行委員会の名誉会長として、引き続きラリージャパンの盛り上げに努め、国内外のラリーファンをより一層引き付ける聖地となっていくよう、しっかりと取り組んでまいります。

次に、技能五輪全国大会・全国アビリンピックについてです。

11月22日から25日にかけて、「A i c h i S k y E x p o」をメイン会場として、「あいち技能五輪全国大会・全国アビリンピック2024」を開催しました。本県も主催者として加わり、県内5会場などで実施された今大会には、約1,400名の選手が参加するとともに、競技見学には多くの方にご来場いただき、大いに盛り上がりました。

本県選手団は、技能五輪では、金賞13名始め90名が入賞し、最優秀技能選手団賞の獲得は20年連続となりました。また、アビリンピックでは、金賞3名始め9名が入賞し、20大会連続金メダル獲得という素晴らしい成績を収めました。

大会当日は、県内4か所と「A i c h i S k y E x p o」を結ぶ無料の見学シャトルバスを運行するとともに、市町村の協力により、県内から多くの小・中・高校生にご来場いただき、日本一の技を競う選手の姿を間近に見ていただくことができました。また、工業高校や特別支援学校高等部等の生徒が競技の解説を行い、小中学生の見学者が技能とその職業への理解を深めることに貢献していただきました。

2025年度の全国大会も本県が主催者となり、「A i c h i S k y E x p o」をメイン会場に開催します。

日本・愛知で開催する2028年技能五輪国際大会に向けて、技能競技大会の経験を蓄積するとともに、技能を尊重する気運をさらに高め、産業首都あいちを支える人材の育成にもつなげてまいります。

次に、あいち県民の日・あいちウィークについてです。

本県では、2022年の県政150周年を契機として、昨年度から11月27日を「あいち県民の日」と定め、11月21日から27日までの「あいちウィーク」において、市町村や事業者等の協力を得ながら、様々な事業を展開しております。

その一環として、公立学校において「あいちウィーク」期間中の1日を学校や市町村が指定して学校休業日とする「県民の日学校ホリデー」について、今年度は県内53市町村で実施していただきました。

また、「あいちウィーク」期間中に、「あいちの魅力発見ガイドツアー」を開催し、「県民の日学

校ホリデー」に合わせて保護者の皆様に有給休暇を取得していただくなど、お子さんと一緒に、地域の自然、歴史、風土、文化、産業等について理解と関心を深めていただく機会となりました。

さらに、「あいちウィーク」期間中の11月23日、24日には、「あいちウィークフェスタ2024」を「オアシス21 銀河の広場」で開催したほか、「あいち県民の日」当日の11月27日には、Niterra 日本特殊陶業市民会館で「あいち県民の日記念イベント2024」を開催し、多くの県民の皆様にご参加いただきました。

これからも、県民の皆様が、「あいち県民の日」をきっかけに、愛知の魅力を再発見するとともに、これまで以上に郷土への愛着や誇りを持っていただける愛知の実現を目指してまいります。

次に、交通安全対策の推進についてです。

本県では、今年も、「交通事故死者数全国ワースト1位」の阻止に向けて、全力で取り組んでおりますが、交通事故死者数は昨年に比べ減少傾向にあるものの、大変厳しい状況となっております。

このため、12月1日から10日まで実施している「年末の交通安全県民運動」において、県警察、市町村、関係団体等の皆様と連携し、「歩行者の交通事故防止と交通ルール遵守の徹底」、「運転者の安全運転意識の向上及び飲酒運転等の根絶」、「自転車・特定小型原動機付自転車利用時の交通ルール遵守とヘルメット着用の徹底」を運動重点に掲げて取り組んでおります。

11月29日には、議事堂正面玄関前で、「年末の交通安全県民運動」の出発式を実施し、一年のうちで最も交通事故が多発する年末に向けて、私から県民の皆様へ、「交通安全年末緊急アピール」を行い、交通事故防止を呼びかけるとともに、今年度の交通事故死者数の半数以上を占める高齢者の事故抑止に向けて、新海県議会副議長、民放5局のアナウンサーの皆様とともに呼びかけを行ったところであります。

2024年も残すところ1か月となりましたが、総力を挙げて交通事故防止に取り組んでまいります。

県民の皆様におかれましても、人命の尊重を最優先に、交通ルールの遵守と安全行動に心がけていただきますよう、お願いを申し上げます。

それでは、今回提案をいたしております補正予算案及びその他の議案につきまして、その概要を申し上げます。

まず、補正予算案についてです。

補正予算につきましては、一般会計で1億1,636万余円を減額補正するものです。

補正予算案の主な内容ですが、まず、愛知県基幹的広域防災拠点について、第1期として、防災拠点の中核施設である消防学校の整備・運営をPFI手法BTO方式により行うこととし、事業者の選定手続きを進めるため、債務負担行為を設定いたします。

また、愛知芸術文化センターの建物管理及び愛知県芸術劇場の運営について、PFI手法コンセッション方式により愛知芸術文化センターの活性化を図ることとし、事業者の選定手続きを進めるため、債務負担行為を設定します。

さらに、近年の夏期高温による農作物への影響を軽減し、本県の農業生産力の向上を図るため、来年夏までに高温対策として必要となる農業機械、設備等の導入を支援します。

このほか、8月27日から9月2日にかけて本県に大きな被害をもたらした令和6年台風第10号によって被災した農地、農業用施設、山地の復旧等を進めてまいります。また、知多総合庁舎について、新庁舎建設予定地において土壌汚染が判明したことに伴うスケジュールの変更等により、今年度予算を減額するとともに、債務負担行為を設定します。

次に、補正予算案以外の議案についてです。

今回提案をいたします案件は、条例関係議案が16件、その他の議案が36件です。主な案件につきまして、ご説明申し上げます。

まず、愛知県芸術劇場等の公共施設等運営権に係る実施方針に関する条例の制定についてです。

これは、愛知県芸術劇場及び愛知県文化情報センターに、コンセッション方式を導入するため、民間事業者の選定の手続、運営等の基準、業務の範囲、利用料金に関する事項を定めるものです。

次に、愛知県立学校条例の一部改正については、授業料を実質無償化する国の高等学校等就学支援金の支給限度額を超える、県立学校の授業料及び受講料を免除する措置を講ずるものです。

最後に、その他の議案でございますが、愛知県公立大学法人中期目標の策定について、議決をお願いするものです。

以上、提案をいたしております案件の主なものにつきまして、その概要をご説明申し上げましたが、詳細につきましては、議事の進行に伴いましてご説明を申し上げたいと存じます。

どうかよろしくご審議の上、適切なご議決を賜りますよう、お願いを申し上げます。